

## 平成27年度 第1回国立市中小企業等振興会議 要点記録

- ◇ 日時：平成27年7月3日（金） 午後7時～午後9時
- ◇ 会場：市役所 3階第4会議室
- ◇ 出席者：
  - ・ 国立市長
  - ・ 国立市中小企業等振興会議委員 13名（全員出席）
  - ・ 事務局 3名
- ◇ 議事（会長選出までは、産業振興課長が行う）
  - ・ 資料確認
  - ・ 委嘱状交付
  - ・ 市長あいさつ
  - ・ 委員及び事務局の紹介
  - ・ 会長、副会長の選出
  - ・ 議題についての説明
  - ・ 今後の進め方
- ◇ 配布資料
  - ① 次第
  - ② 平成27年度 第1回中小企業等振興会議資料1
  - ③ 平成27年度 第1回中小企業等振興会議資料2（国立市中小企業振興基本条例）
  - ④ 平成27年度 第1回中小企業等振興会議資料3（国立市中小企業等振興会議設置要綱）
  - ⑤ 委員名簿
  - ⑥ 国立市観光懇談会「提言書」
- ◇ 要点記録
  - 国立市長より各委員に委嘱状が交付された。（市長が順次委員の席を回って委嘱状を手交した）
  - 市長あいさつ（佐藤市長からあいさつを兼ねた会議に期待することについて説明があり、終了後次の会議のため退席）
    - 市長： 梅雨まっ只中、雨の中ご参加いただき、ありがとうございます。本日の資料をご一読いただければ、中小企業等振興会議や皆様へのご依頼内容については明記されております。私は、昨年提出いただいた国立市観光懇談会の「提言書」にいたく感銘を受けました。たくさんのことを実現することは出来ないと思いますが、国立市の中小企業振興のためにタイムリーな案件を抽出していただきシステム

について明示いただければ、こんなありがたいことはありません。時局的なタイムリーな部分は今すぐ行うことと、遠局的に将来の投資・礎となる考え方を明示いただくとありがたい。資料の協議内容にもあるとおり、2020年の東京オリンピック開催、翌年21年の旧国立駅舎の再築の具現化に向けてJR八王子支社や東京都と積極的に交渉して、終局的な場面を迎えようとしています。これからは必要な面積数・文化財としての対応や価格の提示、再築後の活用方法について検討していきます。また、国立駅周辺だけで完結するのではなく、今後谷保駅のバリアフリー化（エレベータ設置）工事が始まりますし、谷保天満宮や水田地帯への一貫した回遊性も考えていただき、まちが国立駅周辺あるいは谷保駅のみで終わることなく、市民が広くこのまち使っていただく、その利用範囲の拡大をぜひお願いしたい。市民にとっての利便性、魅力性をふんだんに活用していただきたい。その手段として何が必要なのか、たとえば観光バイスクールが必要なのか、あるいは他のツールが必要なのか、いろいろあると思いますので、出来ればシステムと同様に細かな道具・仕掛けについても議論していただくとありがたい。2020年、2021年まであと5年6年あると思いますが、過去を振り返ってみると月日の経つのは非常に早いと私自身実感していますので、具体的な識見、システム化を期待させていただきたいと思います。皆様方の熱い議論と生産的な意見交換を期待させていただきたいと思います。

#### ○各委員の自己紹介及び事務局紹介

#### ○会長、副会長の選出

事務局（産業振興課長）から、会長の選出については、国立市中小企業等振興会議設置要綱の規定により委員の互選となっていることを説明し、立候補または推薦を募ったところ、推薦者があり、異議なしで了承され会長が決定した。

引き続き副会長の選出を行い、同様に国立市中小企業等振興会議設置要綱の規定により委員の互選となっていることから、立候補または推薦を募ったところ、推薦者があり、異議なしで了承され副会長が決定した。

#### ○議題についての説明

事務局から、説明に先立ち第1期・第2期の会議同様にこの会議が傍聴可能なこと、要点記録はホームページで公開されることを説明した。また、第1回会議開催まで時間がかかってしまったことについてお詫びした。

資料をもとに、条例や要綱の規定により第3期中小企業等振興会議の位置づけについて、説明し、今回の会議で協議していただくことや、委員の人選についても協議内容に合わせて行われたことを説明した。

今回の協議内容である「観光懇談会の提言を踏まえた中小企業振興策」について、国立市観光懇談会が平成26年4月から12月まで活動してまとめていただいた「提言書」をもとに議論していただくこととなっている。特に15ページの体系図に記載されている国立市の観光につ

いてのテーマとそこから導き出された3点のキーワードと11の施策、41のアクションプランが、まちの賑わい創出や中小企業（商店街や農業も含む）の振興に資するものと考えおり、記載はされていないが2020年の東京オリンピック開催、翌年21年の旧国立駅舎の再築を踏まえて議論していただきたい。また、議論については、従来年間4回会議を開催し、おおむね2年間で報告いただいております。議論の進捗状況によっては若干早まることも考えられるが、資料1のスケジュールの原案をたたき台として作成したことを説明した。また、「提言書」の内容については、今回の会議で最後のまとめにかかわられたワーキンググループの方が会議の委員とされているので、内容についての質問もしていただきながら議論していただければ理解が深まることと、アクションプランにとらわれずの一つでも二つでも実際に実現できる施策をご提案いただきたい旨を説明した。

#### ○今後の進め方

会 長：次第（5）議題についての説明と（6）今後の進め方について、事務局から説明が終わりましたが何かご意見はありませんか。

委 員：この8回でどの程度まで市長へ提言するのか。具体的な施策の提案までするのか、ある程度の構想までにとどめるのか。

会 長：どこまで議論を進めるのかの着地点というか、目標をメンバーで共有することが必要ですが、事務局で案がありますか。資料では平成29年2月に最終答申とありますが、最終答申の内容にどんな内容が盛り込まれるかについて事務局で原案がありますか。

事務局：可能であれば、短期的に実施が可能な施策と長期的に実施する施策をいくつか挙げていただき、具体的にどこの団体がいつまでに何をすることが羅列できればと考えています。夢物語ではなく実現性のあるご提案をしていただくとありがたいです。市長からの話のとおり、先を見据えた提案と近々の提案の2通りで検討いただければと考えています。第2期の会議は矢川メルカード商店会の活性化という非常に判り易いテーマに対して、具体的な提案でしたので、今回も同様にしていただければと考えています。

会 長：観光懇談会の委員の方もいらっしゃいますが、体系図はどれくらいの時間の感覚で達成するお考えだったのでしょうか。

委 員：前回の観光懇談会でも同様のことを市から言われて、短期的・長期的にまとめて書いていきたかったが、どこがそれをやるのかを書ききれなかったのでこの場で議論できればいいと思う。

委 員：提言書をまとめる時に、観光懇談会の事務局からどこが主体にいつまでにやるのかを

求められたが、主体が複数あることもあり既にやっていることも書いてあるので、アクションプランを超えた内容で検討したほうが中小企業振興策として提案が出るのではないか。

事務局：提言書がまだまだまとめきれていない点もあり、その点は観光懇談会の事務局の責任ですが、提言書の中には自転車駐車場の整備が提言されています。これは自転車で周れる小さな市域であり、市長の話に出た谷保までの回遊性のことも考えて、国立の良さを記載したページの内容も含めて、例えば市内を周るレンタサイクルの導入を検討していただくとしたら、その提案が最終的に中小企業振興につながる、市内の自転車店とタイアップするとか、商店街単位で貸し出すなど、提言書には書いていないがエッセンスとして含まれる、提言書で拾えきれなかった部分を含めて検討していただければと思う。議論となるのは提言書の内容から少し離れるところはあるけれど、元は提言書の中にあるものと考えています。

委員：既にJRがレンタサイクルを数年後に国立で始める予定のようだが、市内の企業や商店と連携してできるのか。できれば商圈も広がるだろうが。提言はベースとしてもっと突っ込んだ話をしたほうが会の趣旨に合うのでは。

委員：第2期の会議はすごく具体的で、会議で議論したものを商店会で持って帰ってできるのかを検討してもらってフィードバックしてやってきたが、今回も商店会へ本当にできるのかどうかを確認しながらやっていくイメージでよいのか。そうしないと2年かけて机上の空論を作り上げることになってしまうが。

事務局：8回だけで議論が深まるかという点は課題であり、前回の方法とは異なるかもしれませんが、出された実現可能な意見の確認やその結果について、そのつど委員の皆様にお知らせして、それに対するご意見があればそれもフィードバックさせていただく方法で対応したいと考えています。

会長：行政としても機動的に動いていただくということですが、観光まちづくり協会としては会議への期待など何かございますか。

委員：他に例のない会費で運営されている協会、会費で支えられている協会が会員のプラスとなっていく、会員が入ってよかったと思うようなことがなかなか出来ていない状況ですが、提言書の内容には協会で行っている事業もあるので、もっと複合的に考えたほうが良いのでは。中小企業のかかわりについて漏れてきているところもあるように思う。それぞれ企業は国立のためにがんばっているが商店街とはちょっと違うスタンスだと思う。提言書にはテーマもでていて、これを乗り越える意味をどう押さえるかが大切だと思う。もともと協会のスタート時には、国立の企業が活性化するためにがんばろうということで始まったわけだが、最初のその意気込みが下火というか、つながっていかな

いと感じる。

委員：提言書の中から、観光と中小企業との接点を考えると、ビジネス、要するに商売につながる位置づけがないので、なりわいとか人を集めるといった切り口、現実的にビジネスにつながるものを絞り込むことが必要と思う。提言書にあるのは種だと思う。これをどのように結び付けていければいいのではないか。

会長：第2期は商店会の委員は必死であったと思います。しかし市役所の会議は数ヶ月ごとに行われるので熱が下がってしまい、当事者の委員とそうでない委員で温度差、ギャップがあったと思う。第3期については、人任せになることが世の常で、誰がやるのか決まらないままこの会議が進んでしまっは恐ろしいことなので、最終答申としてすごいものを出すのではなく、国立市内で観光と中小企業の振興が進んでいくのを見守っていくことが大切。会議の委員が市民の色々な層の方から構成されているので情報を共有できることは良いことである。第2期と組み立てが違うので、1年から2年かけて会議でまとめても古臭いものにならないように、常に新鮮な何か、それが国立市で動いていくような、市内で活動している人を励ます会議にできればいいと思う。抽象的なお話になって申し訳ない。

委員：観光と経営、我々の商売を結びつけるということは、なかなか難しいと思う。直近ではLINKくにたち2015のように市が主導となって、市外からお客さんを呼ぶ企画、イベントは多々あるが、どのように私たち商店に引きつけて利益となって循環していくかという接点がいつも課題である。観光でお客を呼ぶという施策はツールとして大事だと思うが、その先の中小企業の我々がどのように活用していくかが判らないことが根本にあると思う。それを具体的に援助していただける案がこの会議から出てそれを商店会へ持ち帰ってフィードバックしていけたら良いのかなと思う。

委員：お話を伺っていると、誰がやるか、どこがやるかが、商店会でもいつも一番問題になる。案を出すとその人間が全部責任を負うことになる。せつかく提言書があるのだから、この問題をいかに解決するかが私は問題だと思う。

委員：中身に入りますが、一番チャンスがあると感じたが、旧国立駅舎を再建することがほぼ決定ということで、この中をどうするかで国立の観光にプラス、マイナスになるのではないか。その点はどこまで話し合いが進んでいるのか。

事務局：昨年市報でお知らせしていますが、観光交流施設として活用することは決まっています。文化財なので制約はあると思いますが観光交流施設として使用することは先般の議会でも報告しています。

委員：ぜひそこから情報発信して欲しい。市内への回遊システムがうまく出来るのではないかと感じた。やりたい人がどんどんやってもらってそれをサポートしていければいいと思

っている。個人的にがんばっている人が多いのが国立の特徴で、雑貨店の人たちが中心となって年4回ぐらい開催する「ゆる市」はものすごい人出があり、「高田邸」のさよならイベントなんかでも市外の方が多くきていました。明日明後日の朝顔市でも商店がタイアップした朝顔散歩という企画をやっています。2月にはミモザ散歩という企画もありました。個々にがんばっている人たちが非常に多いのが国立の特徴なので、情報を共有してお互いに応援しあう中小企業と連携できるシステムを作れば、観光まちづくり協会の負担も減るし、みんなで盛り上げていけないのではないか。

委員：そもそも、この「提言書」はどうするんですか。実際に予算に反映されたりされるんですか。

事務局：厳しいご指摘ですが、本来であれば、提言書をもとに庁内で検討して予算化していくところですが、なかなか予算化できていません。懇談会の協議がタイムアップに近いところもあり、引き続き協議しようという話もありましたが、やりきれませんでした。今回この提言書をもとに、この会議でさらに揉んでいただくこととなりましたので、中小企業の振興とは関係ない部分については、産業振興課で長期的・短期的に対応していく予定です。

委員：市長が、この「提言書」をもとに進めて欲しいということであればこれで進めていかなければいけないと思う。どこで誰がやるのか、駅舎のことなども取入れて、何かを実行して結果を残したいと思うので、ぜひ「提言書」を参考に進めていければいいと思います。

委員：観光と商店・企業とは、郵政省の時代から同じ話があったと思います。例えば、ふるさと小包でその中から街が復活してきている。全国へ発送することで人が戻ってきたと聞いています。観光とまちの発展、産業の発展は必ずどこかで結びついてくると思う。江東区を見るとシンボリックな富岡八幡があり、まちの産業があり、富岡八幡にはものすごいお客さんが来ている。提言書をしっかり詰めていけばよいのではないかと。観光から先のお店や企業につながってくるのではないかと、例えば国立ブランドという表現には魅力を感じます。郵便局は全国にあるので、何かでてくれば発信・協力は出来るのではないかと思います。逆に期待しています。

委員：提言書の理解を深めるために、どのようなプロセスで作られたかと、良かった点と心残りの点があれば簡単でいいので教えて欲しい。

委員：提言書の20ページにありますが、国立らしい観光とはなんだろうというイメージを固めるところからスタートして、全体のアクションプランまで考えていこうというのが全体の流れで、最終的にアクションプランがいろんな分野にバラバラになっていたもので、それをきちんとまとめたのがワーキンググループの仕事と理解していただければよい

と思います。

良かった点は、行政や商工会の方だけでなく市民の方も参加されていたのがメリットで、それぞれの立場で思っていることを共有できた。最終的にテーマである「TOKYO SALON 出会いを楽しむまち くにたち」をみんなで固まったイメージとして共有できたことが良かった。残念に思ったのは、アクションプランが長期・短期としてつなげられなかった点と、お互いの立場があるために議論が紆余曲折してしまったところがみられたことと、具体的な部分が決まらなかったこと。

委員：補足しますと、9ページにある国立市における課題として、観光に使える点として非常にまちのイメージが良いが、それを生かしきれていない。観光施策として何かを出していくことが必要であるが、市民委員として終着点が見えないところもあった。中小企業振興で考えると、例えばとうもろこしを買うにしても、もぎ取りして買って帰ることで観光の要素があると思う。北海道の安平町が雪だるまを商品として宅配して爆発的に売れたことから、そこから「送る」「採ってくる」という仕事生まれる。アクションプランにも宿泊施設を作るという提言では、谷保で里山体験が出来る施設、国立ならではの施設を作って雇用や地場の物を納品するといった連携を、観光を中心にやっていってはどうかという話も出たが、いいものを生かしていくという議論が進まなかったのでこの会議で出来ればと思う。

委員：商工会では、商業便利度調査を3年間で行っていて、1年目は消費者アンケートを元に買い物先や国立で買い物しない理由などを分析し、2年目は事業者の方へアンケートを行い、3年目は現状認識を元に国立の商業はどういう方向を目指すべきかまとめようとしています。どのようなものが出てくるか判らないが、観光と事業をどのように繋がられるか参考になればと思いましたので、機会があれば情報提供したい。

会長：今まとめの作業をしているところですか。

委員：今年が3年目で、これからスタートなので、2月ぐらいには大体の方向性がでて、3月には報告書がでると思います。

会長：今後の進め方ですが、開催のスケジュールは事務局原案ですと、第2回会合が10月となっておりますので、その点を頭の片隅に入れながら考えていきたい。短期と長期については、すぐに出来る取り組み、やる人がいればできることが短期、市が予算をつけることが必要なものや、駅舎のように何年もかかるもの、競技場を壊してから建て方を考えるようではいけないので、そのようなものは長期と考えられるが、提言書に書いてあるものを長期・短期に分ける作業、アクションプランの整理は産業振興課で出来るのか。

事務局：できると思います。事務局原案でまとめて、委員さんへ見ていただいて作成することは

可能です。

会 長：10月に事務局原案で整理したアクションプランの整理した表を検討するのはどうでしょうか。

委 員：良い素材の種を整理して、短期と長期と企業化や条例化が必要など分類することも考えられるが、提案ですが短期と長期と、ビジネスの視点（ビジネス化）で整理したらどうでしょうか。たたき台として短期と長期とビジネス化で分けてもらって、委員に投げてもらって、それを検討した結果を返して作り直せばディスカッションペーパーとなるんじゃないでしょうか。

会 長：そのタイミングとして、夏から秋になる頃までに、たたき台を委員に出してもらえれば、次の10月には進んだ議論が出来ると思いますが、事務局どうですか。

事 務 局：それは出来ると思います。作業するには期間もありますので。

委 員：「らしさ」をたたき上げていく。駅舎の問題も大きい。駅舎を見て国立駅で降りた人が元気になるといい。JRはどこも駅が同じになってきているので、降りる人が駅に吸収されないように、その歯止めにもなる。落ち着いたものの中に国立のよさを感じる人もいたので「らしさ」がさらにパワーアップしていくことで、まちが元気になるのではないかと思う。だんだんいろんな意見が出れば良い、これ以上の提案が出てくるのではないかと思う。

委 員：アクションプランを整理していく中で、例えば行政が強く関与しなければできないことや商店会がやる気にならないとできないものといった、関わる組織による色分けもできるといい。

会 長：大学とか。街ゼミ市民講座とか実際に大学ではなくてもやっています。

委 員：担い手の問題が大事だと思う。若い担い手を育てていくことが大事なのではないか。例えば、朝顔市なんかも進歩している。朝顔散歩と結び付けてやっていることから、担い手が変わっていくなかで、拮がっていると感じる。

会 長：誰が担うのか。担うといっても全て担うのではなく、分担してもいいわけで、お金を出す人、いいアイデアを出す人、汗を流す人。

委 員：いろいろな団体がさまざまな切り口で取り組んでいるので、それを結び付けて市が方向性を示して、枠組みを作っていくことが大切ではないか。



委員：観光懇談会の中で出た話として立川を目指すわけでも国分寺を目出すわけでもない。そのような観光を目指すわけではない。国立らしさを目指す。落ち着いたところも国立の良さだと思う。とび抜けて有名ではないが落ち着く喫茶店や、絵になる洋菓子店があったり、たくさんの人を呼んで何かをするのではなく国立のファンを増やしていく。そこに中小企業がかかわっていく仕組みづくりが必要だと感じた。

委員：観光懇談会のテーマTOKYO SALONは、東京オリンピックに向けて外国人観光客を視野に入れた言葉で、国立には大きな観光資源はないが、出会いを楽しめる、訪れた人も楽しめる、暮らす人も楽しんで訪れた人も楽しめる、非日常ではなく日常を楽しむための言葉です。外国人が都心から流れてくると思うので、多言語標記は今からでも取り掛かれればと思う。観光懇談会のアドバイザーの先生は、まちのイメージをひとつに決めて、そこから具体的なアクションプランをひとつに絞るよう提案されていたが、アクションプランが非常に多く具体的に出され、ここまでまとめるのも大変だった。これから2年かけてひとつの形にまとめあげれば良いと期待している。

委員：今、市の他の部署で、第5次の総合計画を作成していますが、まち・ひと・しごと創生会議の地方版総合戦略をそこに加えて検討することで、地方活性化が総合戦略のメインテーマとなっており、国立市の地方活性化としては中小企業の振興ではないかと思う。その計画を出すのが、来年の3月で審議が終わるのがだいたい1月ぐらいなので、そのスケジュールの中で中小企業等振興会議で何らかの提言ができれば良いが、まず間に合わないだろう。中小企業等振興会議での結果を、市の総合戦略や総合計画にできることからアピールできればいいと思うが。

会長：総合計画や総合戦略、年度予算の締め切りと中小企業等振興会議のスケジュールの関係はどうなっているか。

事務局：総合計画についてどこまで反映できるか、観光懇談会の提言書については、総合計画についての担当課からの調査で内容が載せています。ただ、正式な基本的な方針にはないので、どこまで重要視してもらえるかは不明です。予算については、市の内部のことですが、例年10月ぐらいに第一段階の要求がでて最終的に1月ぐらいまでにださないと来年度の予算案に反映さないという現状です。ただ、補正予算も含め必要なものについてはその都度出てくると思いますが、前回の会議でも中間報告をいただいているので、今回もある程度まとまった時点で予算に反映することもできると考えています。ただし、途中で予算化するものについては、実現できるもの、緊急性の高いものという条件がつきます。したがって日程にとらわれなくても良いのではないかと考えます。来年度予算に反映させるためには10月までに提言が出なければならぬので、それは難しいと思います。観光懇談会の提言についても、できるものについては事務局で予算を要求しています。具体的には駅前のウエルカム看板ですが、査定の結果採用されなかったので、

中小企業等振興会議で新たなご意見をいただければ、改めて予算を要求することもできます。そのような考えから予算のスケジュールに会議をあわせるのではなく、十分議論できるためのフィードバックの時間を確保して開催していただいたほうがありがたいです。次回の10月の内容が予算に反映されることは難しいと思います。

委員：この会議で地域の活性化ということで中小企業の振興策を検討して、総合計画の会議でも総合戦略を立てる中で中小企業をどうしていくかを話し合うことになると、整合性が取れるのか懸念がある。

事務局：その点については、計画を作る時に企画部門だけで情報を閉じて進んでいくわけではない。常に現局とやり取りをしていくので、議論の中身はこちらでも把握していることになるので、その資料をこの会議で提供することもできますので軌道修正もできると思います。また、レベル間がだいぶ違うと思います。あくまで総合計画は方向性を示すものなので、指標なんかも市内の商業販売額など上位的なものになりますが、この会議ではそれほど上位のものを想定していませんので、その点でも棲み分けができると思います。

会長：次回の日程はどうでしょうか。

事務局：今回も事務局で調整したところ、日程の決定に苦労したので皆様ご出席のこの場で決めていただけると助かります。

会長：次回は、10月23日（金）19時からということでよろしく願いいたします。他になければこれで会議を終了いたします。